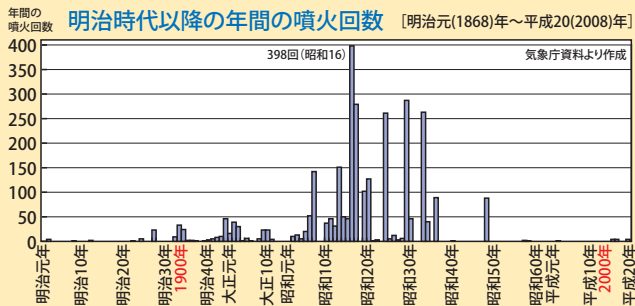


浅間山の噴火の特徴

明治以降の噴火

浅間山は、最近20～30年間は比較的静かな状態が続いています。しかし、明治時代から昭和30年代にかけては、噴火をひんぱんに起こしていました。



噴火した場合、火口から4km以内では、50cm程度までの大きな噴石(岩塊)が飛んでくる可能性があります。明治時代以降の噴火で犠牲になった方々は、全て火口から4km以内にいた登山者で、噴石(岩塊)の直撃を受けて亡くなっています。



昭和33(1958)年12月14日の噴火による噴煙の様子



昭和58(1983)年4月8日の噴火で火口から飛来した直径約70cmの噴石。火口から約2kmの湯の平にて。

天明の噴火

天明規模の噴火は、今すぐ起こる兆候はありません。

天明3(1783)年の噴火は、死者1400人以上、倒壊家屋1000棟以上となる大災害をもたらしました。この噴火が「天明の噴火」と呼ばれ、大規模噴火の象徴ともされています。この規模の噴火は、過去2000年間に3回記録されています。

明治以降では、天明規模の噴火の発生はありませんが、将来起きる可能性があります。

降灰(火山灰)についての注意

- ❗ 火山灰は風で遠くまで運ばれます。また、風向きによって様々な方向に降ります。平成16(2004)年の噴火の時には、右の図のように風向きによって様々な方向に火山灰が降りました。
- ❗ なるべく家から出ないようにし、やむを得ず外出する場合は、マスクやゴーグルなどでのどや目を守りましょう。大きな健康被害を引き起こすことは少ないですが、ぜんそくや気管支炎などの症状をお持ちの方は、注意が必要です。
- ❗ 窓やドアをしっかりと閉めるようにしましょう。コンピューターや精密機器の故障の原因になります。
- ❗ 火山灰は、とがった結晶質の構造をしているため、ワイパー等でこすると車のフロントガラスに傷がつく恐れがあります。多量の水で洗い流すようにしましょう。
- ❗ 道路が滑りやすくなり、車やバイク、自転車のブレーキが利きにくくなります。また、タイヤで巻き上げられた火山灰などで視界が悪くなります。注意して運転しましょう。



浅間山について知るには…

浅間山の状況を知りたい時やライブカメラの画像を見たい時

- ▶ 噴火警戒レベルや降灰予報について詳しく知りたい方は気象庁ホームページをご覧ください。
<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>
- ▶ 利根川水系砂防事務所と長野県佐久建設事務所のホームページでは、ライブカメラで山の様子を見ることができます。
<http://www.ktr.mlit.go.jp/tonesui/camera/>
<http://www.sakuken-asama.jp/>



←利根川水系砂防事務所カメラ
・浅間山東
・浅間山西



←長野県佐久建設事務所カメラ
・黒斑山
・御代田町役場
・軽井沢町役場

- Q. 登山規制などについて知るには?
- A. 御代田町のホームページをご覧ください。

<http://www.town.miyota.nagano.jp/>

「トップページ」→「安全・安心のまちづくり」

→「防災」→「浅間山の火山情報」

○浅間山倶楽部ポータルサイト

登山者の入下山登録、浅間山周辺地域の防災気象情報メール配信、観光情報等のサービスが利用できます。

携帯電話から <http://asamayama.info/>

浅間山倶楽部ポータルサイト ⇒



このマップに関するお問い合わせ先

- 御代田町役場 総務課
電話 0267-32-3111

火山の異常をみつけたときの連絡先

- 気象庁浅間山火山防災連絡事務所 電話 0267-45-2167
- 気象庁火山監視・情報センター 電話 03-3211-7952

発行 浅間山火山防災対策連絡会議、御代田町
平成22年3月1日発行
企画 国土交通省利根川水系砂防事務所
群馬県・長野県

監修・助言 浅間山ハザードマップ検討委員会
調査・製作 (財)砂防・地すべり技術センター
写真提供 気象庁
利根川水系砂防事務所

国土地理院 地形図複製使用
承認番号